

口演発表 抄録の記入の仕方【参考資料】

(1) 記入全般について

- ・文字は、丸ゴシック・11ポイントで、枠内におさまるように記入してください。ただし、スペースが足りない場合には、10ポイントまで文字サイズを下げてください。
- ・**記入枠の大きさは変更しないでください。**
- ・誤字、脱字には十分ご注意ください。

(2) キーワードについて**※必須**

「キーワード1」の記入は**必須**です。主題と内容に沿った言葉を一つ記入してください。
(キーワードは、抄録を閲覧するうえでの検索ワードとなる予定です)
「キーワード2」は、該当するものがない場合は「なし」と記入してください。

(3) 研究(実践)期間について**※必須**

取り組みを行った期間を**月数で記入してください**。(誤：1年 → 正：12ヶ月)
期間は、課題として取り組みを行うことを計画した時から、発表に至る**一定の結果が得られた時まで**とします。取り組みが継続中の場合も、抄録提出時までの期間を記入してください。

(4) 共同研究者について

該当者がいる場合のみ、氏名・職種を記入してください。

(5) 倫理的配慮について**※必須**

本大会において研究(実践)発表を行う際には、「倫理的配慮」に基づくこと、つまり人権尊重や個人情報保護、著作権等への配慮が求められます。発表における倫理的配慮を明らかにするため、抄録内において**下記の例を参考に、倫理的配慮に関する一文を記述してください**。

【倫理的配慮に関する一文の例】

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本研究(実践)以外では使用をしないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

(6) 参考文献について**※必須**

研究(実践)が適切な理論・根拠に基づいて行われているという証明だけでなく、他事業所などが研究(実践)を参考にする上での参照事項になります。

(7) 提案と発信について**※必須**

私たち福祉業界から、情報を発信することを目的に設けた部分です。
研究(実践)成果のアピール、課題に対する呼びかけ、ケアの提案等、積極的に記入してください。
自施設のPR等、研究(実践)から外れるような内容の記入は控えてください。
内容によっては、受付後、事務局で文書を修正または削除させていただくことがあります。

(8) 抄録の公開について

選考を通過した抄録は、当日資料として参加者に配布されます。また、インターネット上のデータベースにおいて、広く一般の方へ公開する予定となっております。記入にあたっては、公開されることを念頭に置いた配慮をお願いいたします。

抄録【記入例】 記入する文字は、全て丸ゴシック・11ポイントで記入してください。
 やむを得ない場合は、最小10ポイントまで使用可。
A4・2枚に収めてください。文章は「である」調で記入すること。

主題	〔例〕アクティブ福祉 in 東京の開催による都内高齢者福祉への効果について *好奇心を煽る表現や「!、?、～、…」は使用しない。基本的に申込時と同じものを記入。		
副題	〔例〕10年間で東京の高齢者福祉はどのように変化したか *主題を補足する意味合いでお考えください。基本的に、申込時と同じものを記入。		
キーワード1	〔例〕アクティブ福祉	キーワード2	*該当するものがあれば記入
研究(実践)期間	〔例〕9ヶ月		

法人名・事業所名	〔例〕社福) 東京都社会福祉協議会 東社協老人ホーム		
発表者(職種)	〔例〕社協花子(介護職員)		
共同研究(実践)者	〔例〕社協太郎(管理栄養士)、社協次郎(看護師) *該当者がいれば記入		

電話	〔例〕03-3268-7172 *全角	FAX	〔例〕03-3268-0635 *全角
----	---------------------	-----	---------------------

事業所紹介	*所在地、施設概要、実施サービスや特徴について記入してください。 〔例〕1966年創設の若い施設です。「ご利用者さまの笑顔のために」を合言葉に、多職種でのチームケアに取り組んでいます。同じ敷地内の、通所介護施設(デイサービス)のご利用者さま、保育園の園児との交流も行っています。新宿区という都心ではありますが、地域に開かれた施設を目指して、職員一丸となって取り組んでいます。		
-------	--	--	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

*問題提起の部分です。なぜこの研究(実践)をすることになったのか、その時の状況や、きっかけとなった出来事等を具体的に記入してください。具体的に記入することで、聴者の興味を引き共感を得ることができます。非常に重要な部分です。

記入のコツ⇒ ○○のような状況があり、事業所としての課題であった。

〔例〕介護業界、高齢者福祉業界全体のイメージをより良いものにするためにも、各施設・事業所での日々の「ケア」をどのように表明していくかは重要な取り組みであると考え。しかしながら、現在のところ、都内の高齢者福祉施設での取り組みについて、発表する機会はあまり多くない。各職員のスキルアップはもとより、都内の施設・事業所が高い意識をもってケアに取り組むためにも、日頃の取り組みを報告する機会が必要と考え、……

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

*研究(実践)の当初の目標設定の部分です。研究(実践)前と比較し、どのような状況変化、改善があったのか、または、成果として期待したこと等を具体的に記入してください。仮説は、「期待する成果」と捉えて構いません。

記入のコツ⇒ ○○のように改善(変化)することを期待して、△△に取り組んだ。

〔例〕 都内で毎年開催されている「アクティブ福祉 in 東京」では、これまで計300業所・施設が発表を行ってきた。発表を行うことが、各施設・事業所また都内の高齢者福祉施設全体に、どのような影響を与えるのかを検証することを本研究の目的とし、次の3点を仮説とした。

- 1、発表を行うことが、日々の施設業務を職員が客観視し、自らのケアを顧みることにつながる
- 2、・・・・・・・・
- 3、・・・・・・・・

《3. 具体的な取り組みの内容》

* 取り組んだ内容と経過を具体的に表す部分です。記入の仕方に指定はありませんが、次の点を盛り込むとわかりやすくなります。

- ① 対象者（全体に対する対象者の割合）
- ② 取り組みの具体的な手法
- ③ 取り組み時間や期間
- ④ 取り組みの手順
- ⑤ 取り組んだ職員数や構成
- ⑥ 部署間の連携
- ⑦ 使用した道具や費用
- ⑧ 活動の成果を出すポイントになった点
- ⑨ 取り組みに対する施設のバックアップ体制

特に費用や時間は、他の方が取り組む際の参考になるため、積極的に記入してください。このほか、「課題や項目に分けて記入する」「時系列で記入する」ことで経過が追いやすく、読んで解りやすい抄録になります。

〔例〕 過去10年の発表施設・事業所のうち「福祉保健局長賞」を受賞した全70事業所に対し、アンケートによる聞き取りを実施した。調査内容は次のとおり・・・・・・・・

調査期間：2013年10月1日～2013年11月31日

調査方法：FAXによるアンケート用紙の配布と回収

回収数：68枚（配布数70枚）

回収したアンケートをテーマ別に分析したところ、・・・・・・・・

《4. 取り組みの結果》

* 上記《3》によって得られた具体的な結果を記入する部分です。数値化できるものは、できるだけ具体的な数値を記入してください。また、ご利用者の反応や他者からの評価等も積極的に記入してください。

〔例〕 分析の結果、特に「法人内・施設内で定期的な事例発表会がある」と回答した施設のうち54施設（約80%）が、毎年アクティブ福祉 in 東京への発表を申し込んでいることが分かった。また、特徴的な点として、・・・・・・・・

《5. 考察、まとめ》

*上記《4》の結果から考えたことや、取り組みのまとめを記入してください。

〔例〕施設内で定期的に発表の機会が設けられていることで、より広域で（多くの参加者に向けて）開催される研究大会での発表意欲がわくと考えられる。また、繰り返し発表することは、日々の実践の見直しにもつながり、施設全体が日ごろ行っているケアへの自信を持つようになることが分かった。・・・その結果、高齢者福祉施設全体のケアの質が向上すると考えられる。また、・・・

《6. 倫理的配慮に関する事項》※必須

*本大会において発表を行う際には「倫理的配慮」に基づくこと、つまり人権尊重や個人情報保護、著作権等への配慮が求められます。研究(実践)発表における倫理的配慮を明らかにするため、抄録内に下記の倫理的配慮に関する一文を記述してください。

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》※必須

*引用文献や参考文献は、著書や論文名などを正確に記入してください。参考文献が思い当たらない場合でも、「特になし」とせず、先行類似研究や基礎データを取り上げてください。

記入のコツ ⇒

書籍の場合：「書籍名」（発行年）著者名、出版社

ウェブサイトを開覧した場合：参照したページのタイトル（ページの発行元）、URL（閲覧日）

〔例〕

「アクティブ福祉 in 東京' 01～' 11大会資料」（2001～2011）、東京都社会福祉協議会高齢部会

「ケアの実践報告」（1990）、社協三郎、東社協出版

「プレゼンテーションスキルをあげよう！」（2007）東京子、東京高齢協書房

全国福祉施設職員における事例発表件数の推移（東社協福祉部統計係）

<http://fukusi.jirei-toukei.ne.jp>（2017年6月15日閲覧）

《8. 提案と発信》※必須

*福祉業界の現場からの発信力が試されています。貴事業所の取り組みを広く他の事業所に紹介し、福祉業界全体のレベルアップに繋げることができれば、大変意味のある発表になります。研究(実践)を通しての、福祉業界への提案、他の事業所への呼びかけ等、貴事業所からの情報発信を必ず記入してください。

〔例〕各施設・事業所での日々の「ケア」表明する機会を定期的に設けることで・・・
このような地道な取り組みが・・・高齢者福祉業界全体のイメージをより良いものにできる。